

製品名: サイクリン T2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09607**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:200,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	73kDa

抗原情報

遺伝子名	CCNT2
別名	Cyclin-T2 (CycT2)
遺伝子 ID	905.0
SwissProt ID	O60583
免疫原	ヒトサイクリン T2 由来の合成ペプチド AA 範囲: 510-590

背景

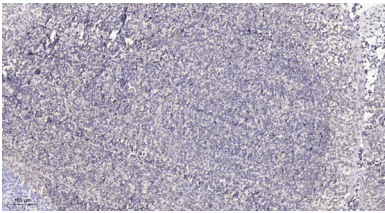
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、高度に保存されたサイクリンファミリーに属し、そのメンバーは細胞周期を通してタンパク質存在量の劇的な周期性によって特徴付けられます。サイクリンは CDK キナーゼの調節因子として機能します。異なるサイ

クリンはそれぞれ異なる発現および分解パターンを示し、各有糸分裂イベントの時間的調整に寄与します。このサイクリンとそのキナーゼパートナーである CDK9 は、転写伸長因子 p-TEFb のサブユニットであることが判明しました。このサイクリンを含む p-TEFb 複合体は、ヒト免疫不全ウイルス 1 型 (HIV-1) Tat タンパク質と相互作用し、その負の調節因子として作用することが報告されています。この遺伝子の擬似遺伝子は 1 番染色体上に存在します。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2010 年 12 月]機能: サイクリン依存性キナーゼペア (CDK9/サイクリン T) 複合体の調節サブユニット。正の転写伸長因子 B (P-TEFb) とも呼ばれ、RNA ポリメラーゼ II (RNAP II) の大サブユニットの CTD (カルボキシ末端ドメイン) をリン酸化することで、不完全伸長から産生伸長への移行を促進すると考えられています。類似性: サイクリンファミリーに属します。サイクリン C サブファミリーに属します。サブユニット: CDK9 と会合して P-TEFb を形成します。アイソフォーム A とアイソフォーム B は、HIV-2 および SIV Tat と相互作用します。HIV-1 Tat の転写活性化ドメインには効率的に結合しません。組織特異性: 普遍的に発現します。

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。